

一一 一季居奉公人出替期日之儀  
御定

覺

一、一季居之男女奉公人出替之儀、二月二日たりといふとも、自今以後三月五日に出替いたすべき旨、公儀御掟候間可守之。當年召置候奉公人之事、來年三月五日迄之證文に可相極由所被仰出也。

(寛政二年)  
子四月 日

一二 一季居奉公人給銀等之儀  
御定

覺

一、一季居者下々給銀、縦相對に而約束仕候共、御定之外少茂遊申間敷候。異儀申者於有之者、公事場々斷可申事。  
一、鑓持・草履取、狀箱其外かろきもの爲持可申事。  
一、乗物昇、居屋敷之普請并荷を爲持可申事。

萬治三年四月二日

一三 奉公人取締之儀御定

覺

一、御家中与々、一年切鑓持・馬捕・小者・草履取於召置は、其者之在所請人、并年季奉公人者年數等、委細帳面に記、組頭方より可請取。附り、與力又家中之者は、其主人より可誓出事。

一、寺社方・町方同斷帳面、御奉行より可請取事。

一、宿々在々同斷、所々御奉行改帳面に記請取可申事。

一、町方・地子方。在々宿々あたまふり奉公人に可成者、所々御奉行人逐吟味、帳面に記可請取置事。

一、御國中奉公人、他國に罷越候様、所々御奉行より急度縮仕候様、年中兩度充可申談事。

一、他國に此跡より罷越有之候奉公人、一類縁者にかゝり呼返申様、所々御奉行に年中兩度充可申談事。

一、在々百姓等、未進方に召置候奉公人、十村・肝煎逐吟味、其給人勝手次第可召抱事。

一、奉公人無故引込申儀、堅御停止に候。但、百姓は田地

荒申敷、又年寄病者に而奉公難成由及斷候者、十村逐吟味、郡御奉行聞届、其上を以可申渡事。

一、町方・地子方同斷之事。

一、鑓持・小者・草履取等、自分として若黨分に成候儀、堅御停止候。但、其主人取上候儀は各別之事。

以上

(寛政三年)  
子六月十六日

前 田 對 馬

今 枝 民 部

奥 村 因 幡

(奉公人御定)  
加須屋八郎右衛門殿

西 村 六 右 衛 門 殿

平 岡 五 左 衛 門 殿

角 尾 五 左 衛 門 殿

一四 奉公人出替期日等之儀御定

一、御家中并御分國中町方・宿方津々浦々一季居男女召置候儀、最前如被仰出、來年三月五日出替いたさすべき事。  
一、來二月二日迄之極に而召置、一ヶ月居延候得共、一統

之御定、其上向後三月五日を限致出替候儀得ば、増給銀有間敷事。

一、女は半季に而致出替候得共、自今以後是又一年切、三月五日出替可仕候。乍然當年之儀は八月暇を遣、八月召置候分も先來三月五日切に相定、來三月よりは一年之給銀相極可召置候事。

一、御郡中者、所により男女出替不同に候。農業之ために候條、先前々のごとくたるべき事。

一、町方之内而茂、百姓分田地持候者は、御郡中可准出替事。  
右之通被仰出候。以上。

(寛政三年)  
子閏六月 日

一五 奉公人出替及給銀之儀等  
御定

一、御家中一年切奉公人、當春出替之儀可爲相對次第事。  
一、當年給銀御定、別紙之通其御心得可被成候。自然背御意、高給銀望申者候者、奉公人御奉行迄急度可有斷候。勿